

平成22年度 校内研究の概要

I 研修目標

全職員共通理解のもとに一体となって研修できる体制作りに努めるとともに、自主的・創造的な子どもを育成するための実践的研修を進める。

II 研修の努力点

- (1) 職員の学習指導上の問題が解決され、自主的・創造的子どもの育成に結びつく、**授業を通じた実践的な研修**を進める。
- (2) 全職員が主体的に参加できる**研修組織作り**に努める。
- (3) 指導者を学校内外に求め（講師招聘）、**研修内容の充実**を図る。
- (4) **マネージメントサイクル** PLAN（計画）DO（実践）CHECK（評価）ACTION（改善）を生かした研修を進める。
- (5) 幅広い視野に立った研修を進める中でも、**研究主題を設定し視点を持った取組**を進める。

III 研究について

1 研究主題

コミュニケーション能力を育む「楽しい英語活動」の創造（2年次）
～自分自身のことについて表現しようとする力の育成～

2 主題設定の理由

- (1) 時代の要請から
現在の経済、社会の様々な面でグローバル化が急激に進展し、人や物の流れだけでなく、情報などの国境を越えた活動が活発になり、国際的な相互依存関係が強まっている。こうした状況下で絶えず国際社会を生きるという広い視野をもつとともに、国際的な理解と協調は不可欠となってくる。そのような態度を育成するために、国際共通語として最も中心的な役割を果たす「英語」の活動を通して、コミュニケーション能力を育むことは、意義のあることといえる。
- (2) 新学習指導要領から
小学校5・6年において「外国語活動」が新設され、平成23年度から完全実施となる。本年度は、移行期最終年となり、外国語活動のねらいに即した指導計画や授業展開がなされているか、課題や問題点を出し合い、英語活動における授業イメージの共有化を図るのによい機会といえる。
- (3) 学校教育目標から
本校の教育目標は、「自主性・創造性に富み、生きる力と優しさを備えた実践力のあるたくましい子どもを育成する」である。この目標を達成するために「体験活動を通じた豊かな心とたくましい行動力の育成」を重点の一つに掲げている。英語活動に絞って研究を進めることで、コミュニケーションを中心とした表現活動を充実させることが、本校の教育目標の具現化の一つにつながっていくものと考えられる。
- (4) 児童の実態から
本校では、平成16年度から総合的な学習の時間・学級活動において「英語活動」を実施しており、平成20年度は、1・2年生は年間7時間、3・4年生は15時間、5・6年生は35時間取り組んできた。その結果、英語活動に対する興味・関心が高まり、英語活動が好きと感じている児童も多い。しかし、内容が難しくなるにつれ、英語活動に対して抵抗感を感じている児童も多く、特に、高学年に多い傾向にある。

以上(1)(2)(3)(4)から研修主題を設定した。

3 研究主題について

平成20年3月に告示された「学習指導要領」では、外国語活動の目標を次のように掲げている。

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

この目標をもとに、本校では、1年目に「コミュニケーション能力を育む『楽しい英語活動』の創造～英語活動における授業イメージの共有化～」を研究主題にして取り組んだ。その結果、以下のような成果及び課題が挙げられた。

<成果>

- 1単位時間の授業の展開について共通理解し、統一した指導計画を作成することができた。
- 担任とAEAともにそれぞれの役割分担がはっきりした。
- 模擬授業を行ったり、AEAに指導のポイントを教わったりすることで、英語活動における具体的な指導法について知ることができた。(チャンツ、スキットなど)

<課題>

- 教師のさらなるスキルアップ(クラスルームイングリッシュの活用)
- コミュニケーション能力を高める指導法
- 英語に苦手意識をもつ子どもたちが依然として多い。

このことから、英語活動における授業イメージの共有化は、ある程度図ることはできたが、子どもたちが英語を使い、自信をもってコミュニケーション活動ができなかったり、コミュニケーション能力を高める指導法の研究が不十分だったりした。

そこで2年目は、チャンツやゲームなどの楽しい活動を通して、学習意欲を高めていく工夫を大切にしながらも、より実際に近いコミュニケーションの場面を設定し、自分自身のことについて表現しようとする力を高めていくような学習の工夫をしていく。そして、英語を使って自分の言いたいことを伝えることができたという達成感や自信を味わい、英語をもっと話したい、学びたいという意欲を高めてくこととする。

4 研究の仮説及び視点

【仮説】

コミュニケーションを図る必要感をもたせる指導の工夫を行ったり、外国語活動に関する環境・整備を適切に行ったりすれば、子どもは、自分自身のことを表現しようとし、積極的に相手とコミュニケーションを図ろうとする態度が身に付くのではないかと。

【視点】

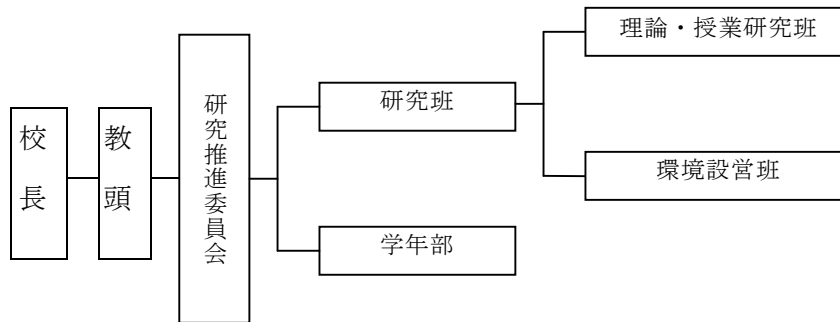
- (1) コミュニケーション能力を高める指導法
- (2) 教材・教具の開発・整理【外国語活動特別教室の新設】
- (3) 児童の興味・関心等学習状況の実態把握及び変容・分析
- (4) 外国語活動の全体計画
- (5) 研究授業を通じた検証 高学年…外国語活動〈2〉
 - ・ 外国語活動の指導案検討は、模擬授業で行う。
 - ・ 略案の提案とする。

- * その他の学年は、研究テーマとは別に以下のような授業提案を行う。
低学年…国際理解教育(創意で)〈1〉・ICT機器活用〈1〉
中学年…国際理解教育(総合的な学習で)〈1〉・ICT機器活用〈1〉
・ 指導案検討はなし。略案の提案とする。
・ ICT機器の授業提案については、教科・単元を問わない。

5 めざす子ども像

外国の文化に興味をもち、積極的に相手と英語でコミュニケーションを図ろうとする子ども

6 研究組織



☆ 研究推進委員会（校長・教頭・教務・外国語活動係・研修部員）

- ・ 研究日程，研究内容の検討を行う。
- ・ 定例会のほか，必要に応じて随時行う。

☆ 学年部

- ・ 研究授業の実施，授業の準備（本時の指導案，教材・教具等）

☆ 理論・授業研究班

- ・ コミュニケーション能力を育む授業のあり方について
- ・ 外国語活動の全体計画
- ・ クラスルームイングリッシュの効果的な活用について
- ・ 指導法の研究，提案
- ・ アンケートの集計・分析

☆ 環境設営班

- ・ 外国語活動の環境についての基本的な考え方
- ・ 英語環境の工夫と実践（外国語活動特別教室の新設，今月の英語の歌）

☆ 研修部

- ・ 教材に関する資料の収集・提供
- ・ 指導案検討，授業研究の司会，記録
- ・ 授業研究のまとめ
- ・ 1年間の研究のまとめ

IV 研究の実際

1. 平成21年度(1年次)

以下の4点を研究の視点にして研究を行った。

- コミュニケーション活動を重視した1単位時間の授業の流れ
 - ・ 担任だけで行う授業
 - ・ 担任とAEAで行う授業
- 教材・教具の活用及び開発
 - ・ 英語ノートの活用など
- 国際理解教育と関連させた授業づくり
- 研究授業を通じた検証

研究の実際は以下のとおりである。

(1) コミュニケーション活動を重視した1単位時間の授業の流れ

本校の指導計画を見直し、児童のコミュニケーション活動がより深まるよう以下のような授業展開の基本を作成した。

鹿児島市立西伊敷小学校 (年) 月 単元名 (/)		
1 目標		
2 基本文・語彙		
3 学習の展開		
導入	英語活動の流れ [] は子どもの Classroom English 【Warming up】 1 あいさつ 日直: Let's start our English Class. 全員: Yes let's. ・Classroom English ・歌、ミニゲーム ・AEAの自己紹介 など 2 学習のめあて [] (1) モデルスキット (2) めあての確認	教師の支援 [] は教師の Classroom English ①は教具等 ・「3 ヒント クイズ」をしたり、今日の天気・気分などを質問したりする。 ・子どもが実際に体を動かす歌やミニゲームなどをする ・外国の文化に触れられるような話をしよう。 Please watch and listen. Listen carefully. 【モデルスキット】 ~コミュニケーションを図る必要感を持たせる英語の教室~ A: Hello. B: Hello. A: B:
	展開 【Main activities】 3 発話練習 4 チャンツ 5 ヒアリング 6 ゲーム [] 内容	Let's practice. Lets try ○○. ◎英語ノート○○番 ◎絵カード【勝負室】
終末 【Looking back】 7 学習のまとめ (1) 学習の振り返り 自己評価カードなどの活用 8 あいさつ 日直: That's all for the class. 全員: Yes, thank you.	How was the class today? Good! ・コミュニケーションに関すること ◎eye contact(相手の目を見て) ◎clear voice (はっきりした声で) ◎good reaction (反応して) や言語や文化に関する事などについて活動のよさを賞賛する。	

活動の始まりと終わりは、児童・教師ともにクラスルームイングリッシュを使うようにし、英語を使う環境をつくるようにした。

コミュニケーションを図る必要感を児童に持たせるためにモデルスキットをめあて設定の前に位置づけた。

外国語活動の3つ目標を設定し、コミュニケーションを意識して活動できるようにした。

チーム・ティーチングの指導の役割

< 基本的な考え >

HRT: 児童一人ひとりの実態に応じて、児童が積極的に活動に参加できるような支援をし、英語を使おうとする姿勢を示す。
 AEA: 英語による活動を通して、児童の英語や外国文化への興味を引き、児童に英語を慣れ親しませる。

(HRTとAEAによる形態)

HRT (担任)	AEA
・ 授業の進行を行う。(発問や指示など) 活動の始まりと終わりはクラスルームイングリッシュで ・ 子どもの活動に入り、コミュニケーション活動や発話などの全般的な活動を支援する。 ・ 子どもの <u>頑張</u> りを賞賛する。	・ ネイティブな発音を聞かせる。できるだけ日本語は使わない。 ・ 外国の文化について紹介する。 ・ 子どもの活動に入り、コミュニケーション活動や発話などの全般的な活動を支援する。 ・ 子どもの <u>頑張</u> りを賞賛する。

また、担任とAEAで行う授業 (TT) では、役割分担が明確になっておらず、AEAにまかせてしまうことがあったが、以下のように役割分担をし、授業を展開することとした。

(2) 教材・教具の活用及び開発

① クラスルームイングリッシュの活用

場面に応じたクラスルームイングリッシュを積極的に使うようにするために以下のようなものを作成し、活用を図った。初めは、活動の始めと終わりのみ使っていたが、子どもへの指示 (教師) や困ったときの返し方 (子ども) など少しずつ増やすよう努めた。



西伊勢小学校
Let's try Classroom English (教師用)

☆ あいさつ
 Good morning, everyone. みなさん、おはよう。
 How are you? 気分はどうですか。
 What day is it today? 今日は何曜日?
 How's the weather today? 天気はどうですか。

☆ 授業の始まり, 終わり
 Let's begin the class. 授業を始めましょう。
 Today's class is over. 今日の授業は終わりです。
 How was the class today? 今日の授業はどうでしたか。

☆ 児童への指示
 Stand up, please. 立ちましょう。
 Sit down, please. 座りましょう。
 Now, let's begin. さあ始めましょう。
 Are you finished? 終わりましたか。
 Are you ready? 準備はいいですか。
 Listen carefully. よく聞いてください。
 Look at~ ~を見なさい。
 Make a circle. 輪になってください。
 Make groups ~のグループになりなさい。
 Make a group of~ ~人のグループになりなさい。
 Make pairs. ペアをつくりなさい。
 Repeat after~ ~の後に繰り返しなさい。
 Raise your hands. 手を挙げましょう。
 Let's clap. 拍手をしましょう。
 Try again. もう1回やってみましょう。
 Be quiet, please. 静かにしましょう。
 Please return to your seat. 自分の席にもどりましょう。
 Do you understand? 分かりましたか。

☆ 賞賛の言葉
 Good. よし。
 Great. すごい。
 You did it. やったね。
 Excellent. (*最上級の賞賛)

西伊勢小学校
Let's try Classroom English (子ども用)
 英語を積極的に使ってみよう

★ 教室で
 おはようございます Good morning.
 元気です I'm fine. I'm good.
 がんばります I'll do my best.
 ありがとう Thank you.
 ごめんなさい I'm sorry.
 どういたしまして You're welcome.
 どうぞ(何かをわたすとき) Here you are.



★ 授業で
 (自分に)やらせてください Let me try.
 質問があります I have a question.
 分かりました I understand.
 分かりません I don't know.



★ 友達の見解に
 いいと思います Good idea.
 すごい! Oh, great.
 気にしないで Never mind.

★ こまったとき
 なにかをたずねるとき Excuse me.
 英語で何て言うのですか How do you say~ in English?
 もう一度言ってください Once more please.
 ゆっくり言ってください Slowly please.

★ その他
 だれかをお願いする場合は ~, please. (please をつけましょう)

教師が、クラスルームイングリッシュを活用しやすいように授業の流れに沿って、クラスルームイングリッシュをいくつか選び、それをスケッチブックに表し、活用した。



① 英語ゲーム集・英語CDの活用

授業の時間だけでなく、朝、帰りの会など普段の生活の中でも英語に親しむことができるようにするため、英語ゲーム集・英語CDを作成し、活用を図った。



(3) 国際理解教育と関連させた授業づくり

AEAとTTで授業を行う際は、授業の導入の段階で、外国の文化や生活の様子を話してもらうようにした。また、ALTとTTで授業を行う際は、単元構成を工夫し、今まで学習した英語での表現を使ってALTと直接コミュニケーションをとる機会をつくるようにした。同じALTが定期的に授業に参加してもらうことでよりの確に自分の気持ちや思いを伝えたいという意欲が高まった。



(4) 研究授業を通じた検証

(単元名 Lesson8 オリジナル劇をつくろう 2月9日実施)

英語でのコミュニケーション活動をより楽しく、臨場感あふれるものにするために劇を取り入れ授業を行った。大きなかぶの話をもとにグループごとに登場人物を考え、オリジナル劇をつくった。発表会にALTを招くことを活動の始めに知らせることで、より正確な発音をすることやジェスチャーをつけることの大切さを意識しながら練習に取り組む姿勢が見られた。発表後には、劇で登場したサムライ、ドラえもん、桃太郎など日本独自のものをより詳しくALTに説明する時間も設定し、ALTとのコミュニケーションを通して、国際理解も深めることができた。



～自己評価カード～

オリジナル劇をつくろう (名前)

☆ 自分の役 サムライ

☆ 発表会を終えて
◎よくできた ○できた △あまりできなかった をつけてみよう。

項目	評価(◎, ○, △)
1 楽しく英語の劇ができたか	◎
2 役になりきり、気持ちをこめてセリフが言えたか	◎
3 ジェスチャーをつけてセリフが言えたか	◎
4 見ている人に聞こえる声でセリフが言えたか	◎

☆ オリジナル劇の感想 (練習から本番までを通して)

最初は判別英語があらわにジェスチャーもあおつけてすしにいたる練習をやるし、みんなからアドバイスがきてジェスチャーもいけるようになった。本番ではいかり発音できて、ローザン名にいられたと感。どと川発表ができました。

ALTに伝わってよかったという感想が多かった。

AEAには、発音。ALTには、交流をお願いし、役割を明確にした

～指導計画～

学習活動	種類	教師の具体的な働きかけ
4 指導計画 世界の民話を知り、「大きなかぶ」の物語を聞こう。 ・世界の民話を読み、どの物語が結びつける。 ・大きなかぶの物語を読み、登場人物を確認する。 ・おじいさん・おばあさんの会話場面を練習する。 Grandma: Please help me. Grandma: What's the matter? Grandma: Look at this. Grandma: Wow, a very big turnip. Grandma: Please help me. Grandma: OK. Grandma: Are you ready? Grandma: Yes! One, two, three.	TT 担任 AEA	・AEAを活用し、子ども達の興味にあわせ、世界の民話について読んでもらう。 ・担任とAEAのスキットを見せ、おじいさんとおばあさんがどのような会話をしているか考えさせる。 ・オリジナルの劇をグループでつくり、ALTの前で発表会を開くことを伝える。
大きなかぶの登場人物を考えて物語をつくろう。 ・おじいさん・おばあさんの会話場面を練習する。 ・登場人物を決める。 ・セリフをきめる。 Hello, my name is- I can- What's the matter	担任 単独	・おじいさん・おばあさんの会話場面から繰り返し表現に慣れさせる。 ・1グループ10人程度にする。 ・登場人物は、ALTに分かるものか、日本独自の文化を伝えられるもの(漫画など)を選ぶようにさせる。 ・プリントに登場人物やセリフを書き込ませる。 ・登場人物の名前や得意なことを紹介する文章を考えさせる。
グループごとに、オリジナル劇の練習をしよう。 ・グループで練習をする。	TT 担任 AEA	・自分たちで考えたセリフがある場合は、AEAに尋ねさせる。 ・発音を中心にAEAに指導をお願いする。 ・ジェスチャーを交えて表現するように伝える。
グループごとに、オリジナル劇の練習をしよう。 ・グループで練習をする。	担任 単独	・セリフの英語が分からない場合は、CDを聞いたり、担任に尋ねたりするように伝える。 ・ジェスチャーを交えて表現するように伝える。
発表会をしよう。(本時) ・グループで発表する。 ・それぞれのグループの劇でおもしろかった所を発表する。	TT 担任 ALT	・楽しく活動できたことをほめる。 ・ALTに感想を言ってもらい、自分たちの活動を振り返る。

2. 平成22年度(2年次)

以下の4点を研究の視点にして研究を行った。

- 教材・教具の開発・整理【外国語活動特別教室の新設】
- 外国語活動の全体計画・国際理解教育(総合的な学習)の指導計画
- 児童の興味・関心等学習状況の実態把握及び変容・分析
- 研究授業を通じた検証【コミュニケーション能力を高める指導法について】

研究の実際は以下の通りである。

(1) 教材・教具の開発・整理【外国語活動特別教室の新設】

外国語活動及び国際理解教育の学習環境を整えるためにイングリッシュルームを新設した。



外国語活動で3つのがんばりたいことを前面に掲示した。

*EYE CONTACT
CLEAR VOICE
GOOD REACTION*



外国語活動で活用する全教材を項目ごとに分け、活用しやすいようにした。



背面掲示板は、異文化を知るためにもの名前や英語圏の国々を紹介するようにした。



子どものコミュニケーション活動を支援するクラスルームイングリッシュの掲示をして、活用できるようにした。

(2) 外国語活動の全体計画・国際理解教育（総合的な学習）の指導計画
 来年度の新学習指導要領本格実施に向け、教育課程の見直しをおこなった。

ア 外国語活動の全体計画

本校の学校教育目標、外国語活動の目標、研究主題との関連、また学年の発達段階及び系統性等を考え、右のように外国語活動の全体計画を作成した。

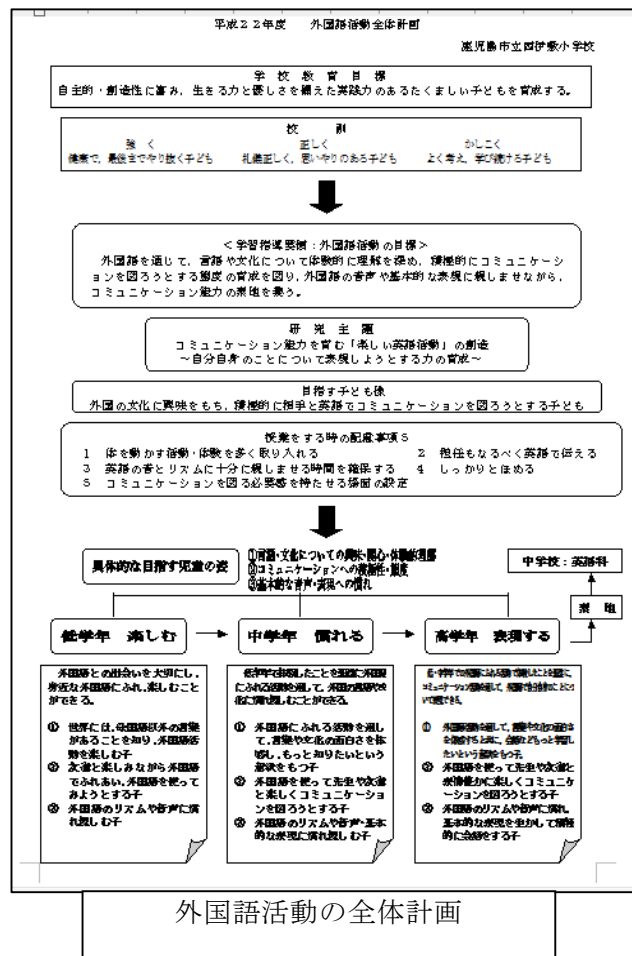
イ 3・4年生の英会話活動の見直し

スキル重視の英会話活動を見直し、国際理解教育の一環として英会話活動を位置づけていくこととした。具体的には、今年度計画している4年総合的な学習「世界いろいろ発見」をベースに3、4年に分けて教育課程を作成することとした。ともにALTとの交流を最終の活動に位置づけた。

H23年度 総合的な学習【国際理解の領域】

3年「世界いろいろ発見①」計11時間
 (英会話3時間を含める)
 → 自己紹介の仕方

4年「世界いろいろ発見②」計22時間
 (英会話4時間を含める)
 → 相手のすきなものをたずねる表現



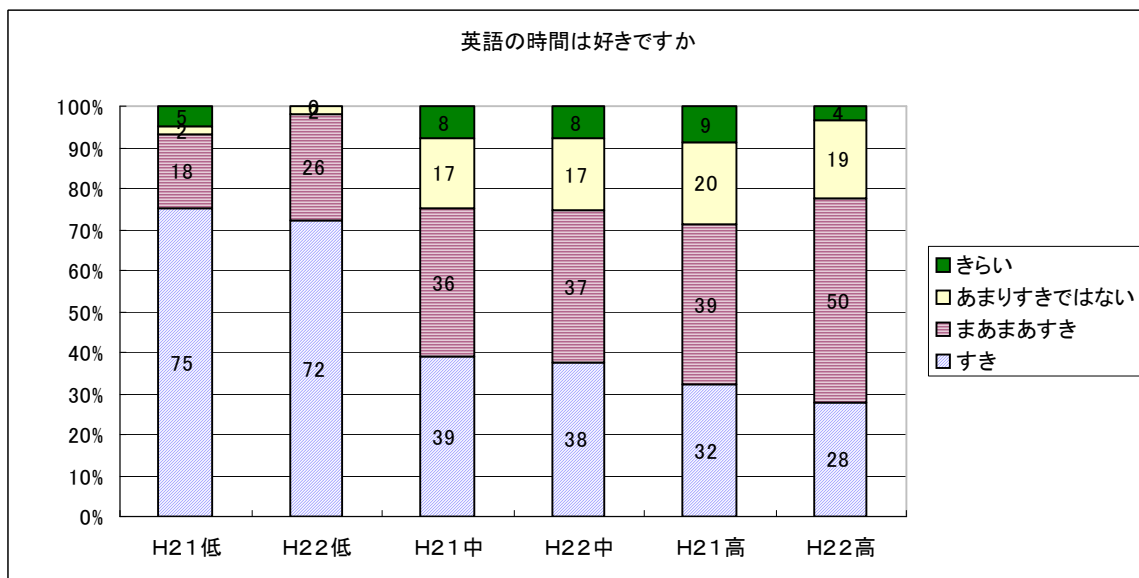
外国語活動の全体計画

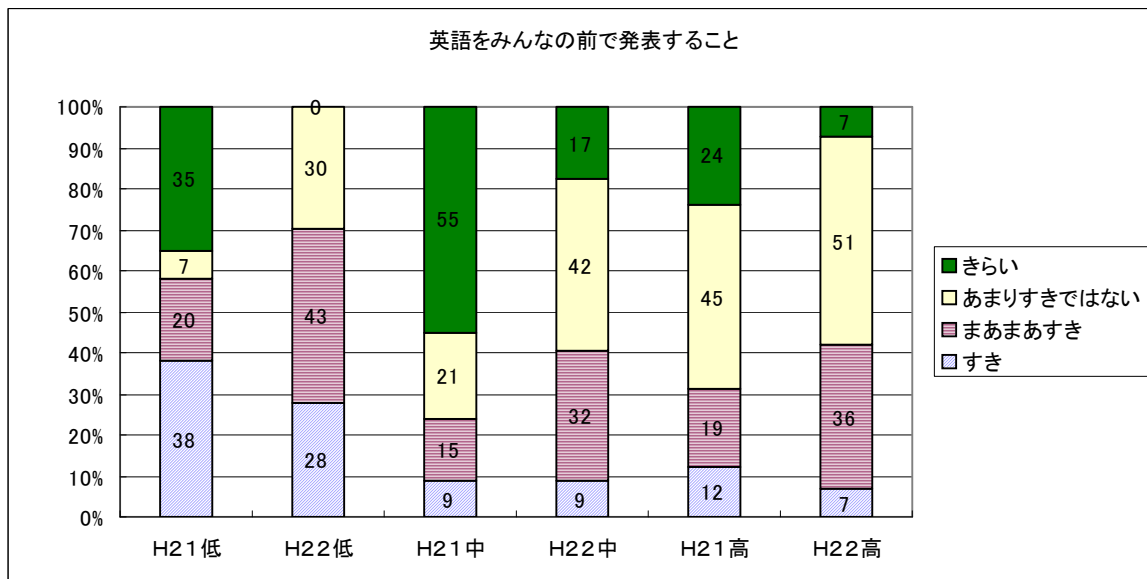
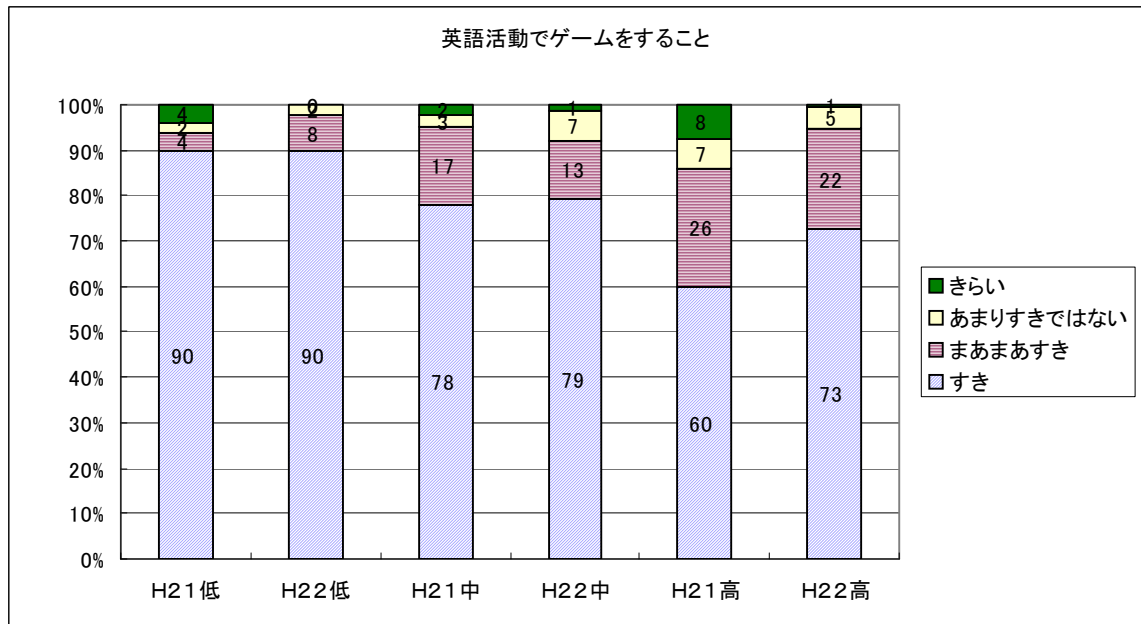
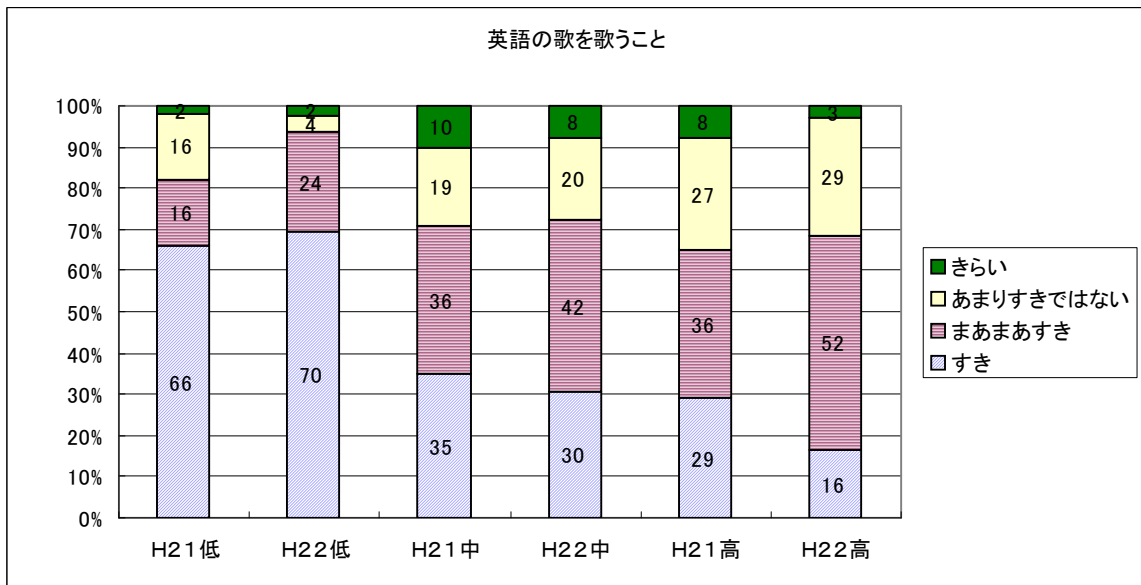
(3) 児童の興味・関心等学習状況の実態把握及び変容・分析

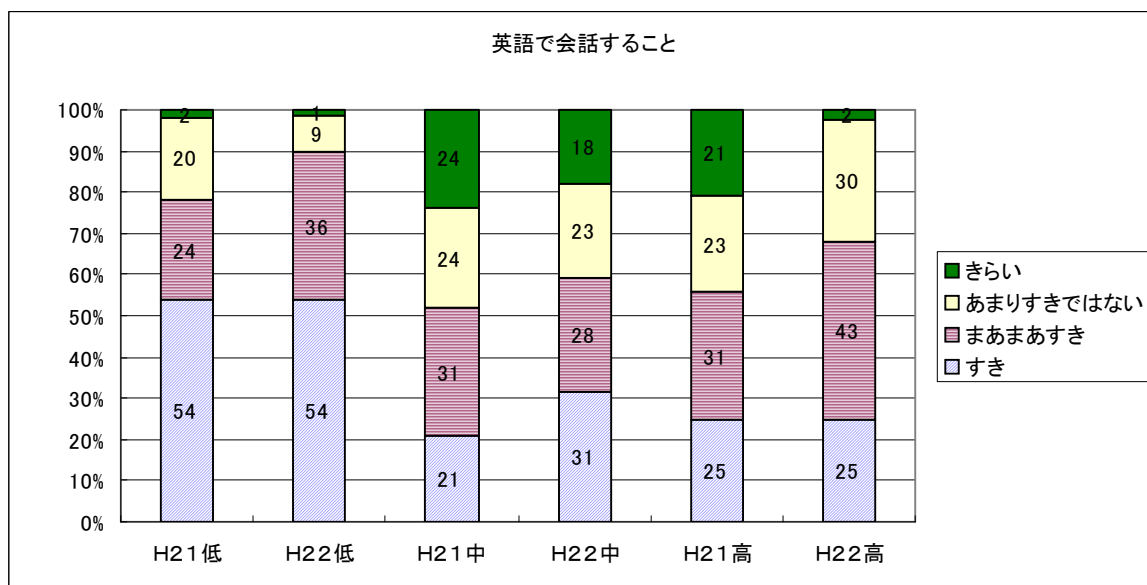
調査方法：アンケート

実施日：①平成21年6月 ②平成23年1月

英語活動・外国語活動意識調査結果 H21とH22の比較 (低・中・高)







< 考 察 >

- ・「英語は好きですか」の設問に対しては、低・高学年は、わずかではあるが、すき・まあまあすきと答えている児童の割合が増えている。高学年は、嫌いと答えていた児童の割合が9%から4%と減っている。この結果から高学年になるにつれて英語嫌いが増えているという本校の実態が少しずつ改善されているといえる。
- ・「英語の歌を歌うこと」の設問に対しては、すき・まあまあすきと答えている低学年の割合は増えている。中・高学年はあまり変わっていない。
- ・「英語活動でゲームをすること」の設問に対しては、多くの児童がすき・まあまあすきと答えている。
- ・「英語をみんなの前で発表すること」「英語で会話すること」などコミュニケーションに関わる設問に対しては、低・中・高どの学年もすき・まあまあすきと答える児童の割合が大幅に増えている。特に嫌いと答えていた児童の割合が大幅に減っている。英語を使ってコミュニケーションをとることに抵抗を感じる児童が減っていると考えられる。

(4) 研究授業を通した検証 【コミュニケーション能力を高める指導法について】

日 時：平成 22 年 11 月 8 日 (月) 5 校時
 授業者：横山 邦昭 教諭
 単元名：「いろいろな衣装を知ろう I don't like blue shoes.」
 5 年 外国語活動

本 時 (3 / 4)

(1) 目標

- ① 買物をする時に必要な表現を知り、買物を楽しむことができる。
 【言語・文化についての興味・関心・体験的理解】
- ② 自分のほしいものを積極的にたずねたり、相手に買ってもらえるように積極的に声をかけたりすることができる。
 【コミュニケーションへの積極的・態度】
- ③ 英語での表現やジェスチャーで自分の考えや思いを伝えることができる。
 【基本的な音声・表現への慣れ】

(2) 語彙・基本文

【語彙】(衣服) cap T-shirt pants socks shoes
 (色) red blue yellow black green white

【基本文】Do you have (色) (衣装)? 例: Do you have blue shoes?

Yes, I do. / No, I don't. Here are you. Thank you.



(3) 指導にあたって

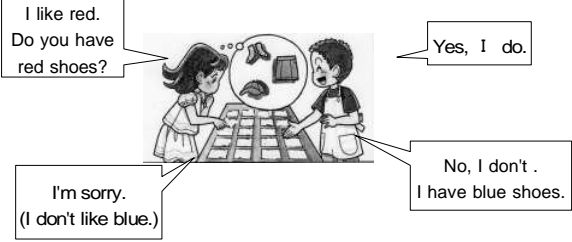


導入【Warming up】の段階では、前時に活用したチャンツで、これまでどのような活動をしたかを振り返らせる。次に、買物場面のカードを1枚ずつ見せ、買物時にどのような表現を使っているのかを知らせ、本時の活動をイメージさせる。

展開【Main activities】の段階では、買物時に必要な表現を振り返らせ、場面をイメージさせながら練習させる。また、買物上手・商売上手になるためには、どのような表現が必要なのかのジェスチャー等を考えさせ、積極的にコミュニケーションできるように表現方法を知らせる。総合案内所を設け、表現方法につまずいたり、どのようにすればよいかわからなくなった児童は教えてもらえるようにしておく。紙幣のやり取りの場を設定し、日常生活に近い環境を作り、表現の必要性と意欲の向上につなげていく。お客役は、時間内にほしいものになるべく安くそろえることを目標にさせ、「計画どおり買う」「他店との比較」を重点にして、コミュニケーションを場を多くしていく。店員役は、値段を下げすぎないようにするために、売り上げ10\$以上に設定し、他店との競争意識も持たせる。また、お客さんに気持ちよく買物をしてもらうための、コミュニケーション（お勧め商品を紹介するなど）を多くする。笑顔为重点にして、コミュニケーションを多くしていく。その際は笑顔もコミュニケーションであることに気づかせたい。

終末【Looking back】の段階では、意欲・話す・聞くの観点で自己評価をさせ、教師側の課題や反省等の資料として活用していくとともに、児童には今後の活動への意欲につなげさせたい。また、お客役、店員役の工夫について発表させ、上手いことを賞賛し、うまくいかなかった点については課題にさせ、次時以降の活動への意欲付けを図りたい。

(4) 展開

	英語活動の流れ [] は子どもの Classroom English	教師の支援 [] は教師の Classroom English ◎は教具等
導入 5分	<p>【Warming up】</p> <p>1 あいさつ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>日直：Let's start our English Class. 全員：Let's start.</p> </div> <p>・Let's chant 「Do you have a cap?」</p> <p>2 学習のめあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Please watch and listen. Listen carefully.</p> </div> <p>(1) P 3 4 の絵を見て、どんなやり取りがされているか考える。 (2) めあての確認</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>買物上手，商売上手にチャレンジしよう。</p> </div>	<p>○ チャンツを行い、前時の学習を想起させる。</p> <p>○ P 3 4 の絵を使って買物場面を英語で紹介し、どんなやり取りがされているのか順に考えさせ、本時の学習のめあてにつなげる。</p>
展開 30分	<p>【Main activities】</p> <p>「Do you have ～？」の練習を行う。</p> <p>4 買物上手，商売上手になるためには、どのような工夫が必要か考え、どのような表現をしたらよいかを考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>・計画どおり買う ・他の店と比べる</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>お客役</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>店員役</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>・なるべく安くしてあげる ・よびかけ ・笑顔</p> </div> </div>	<p>○カードを使い、Do you have～？ を多く使うゲームを行う。</p> <p>○買物上手，商売上手になるための表現方法や行動について考えさせる。</p> <p>○英語でどのように表現すればよいか知らせたり、考えさせたりする。</p>

	<p>5 客と店員にわかれて、買物を行う。</p> <p>①あいさつ Hello.</p> <p>②商品の確認</p>  <p>③支払い（値段交渉）</p>   <p>④あいさつ Good-by.</p>	<p>○紙幣を使い、子どもたちの意欲を高めさせる。</p> <p>○相談所を設け、表現に困った子どもの支援をする。</p> <p>○店員役には、笑顔もコミュニケーションの一つであることを知らせる。</p> <p>○お客役には30\$内で買う計画したものを購入するように指示をする。</p> <p>○店員役には目標売り上げ金額を設定させ、値段をさげすぎないようにさせる。コミュニケーションの一つであることに気づかせたい。</p>
<p>終 末 5 分</p>	<p>【Looking back】</p> <p>6 学習のまとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">How was the class today?</div> <p>(1) 学習の振り返り、自己評価カードに記入する。</p> <p>(2) 本時を全体で振り返る。</p> <p>7 あいさつ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>教師：That's all for the class. 日直：Let's finish the class. 全員：Let's finish.</p> </div>	<p>○ お客役にはどのくらいの金額で全て買い揃えることができたか、どのような工夫をしたのか、店員役にはどのくらい売り上げがあったのか、どのような工夫をしたのかを発表させる</p>

(5) 評価

- ① 買物をする時に必要な表現を知り、買物を楽しむことができたか。
【言語・文化についての興味・関心・体験的理解】
- ② 自分のほしいものを積極的にたずねたり、相手に買ってもらえるように積極的に声をかけたりすることができたか。
【コミュニケーションへの積極的・態度】
- ③ 英語での表現やジャスチャーで自分の考えや思いを伝えることができたか。
【基本的な音声・表現への慣れ】

*授業研究より

1 授業者反省

- ・いつも通り子どもたちは活動ができた。
- ・チップをわたす活動を前時に行ったが、本時は、安くしたところではなく、笑顔や丁寧な対応をしたところにわたすよう指導した。

- ・クラスルームイングリッシュが十分に言えなかった。使えるところは、今後も使っていきたい。

2 質疑応答

Q.前時までの様子は？

A.ほぼ同じ流れで2・3（本時）は行った。2時は、説明が長く活動が短かったが、目標はほぼ達成できた。第1時は、場面絵を見せながら場面を想像させ、基本文を導き出すようにした。その後基本文 Do you have ~. Yes, I have.の練習につなげた。第2時では、好きな色を明確にした。チャンツは、朝の会でも歌い定着を図った。映像がないとなかなか歌えなかったのでイングリッシュルームの時は、絵を使った。

Q. Do you have ~? Do you like ~? など使っている英語の意味はどれくらい理解しているのか？

A.8～9割は理解していたと思う。

3 意見交換

【コミュニケーションの必要感をもたせる指導について】

- ・看板や売り上げ等の工夫をさせ、役になりきらせることでコミュニケーションの必要性を感じさせるようにさせた。買い物をしている途中で中断し、ひと工夫（本時では、売り物をすべて売るために売り手に商品名を言わせるなど）したことで、コミュニケーションしようとする意欲がさらに高まった。
- ・めあての設定の仕方がとても大切ではないか。本時のめあて「買い物上手、商売上手にチャレンジしよう」は、子どものコミュニケーションをしようとする意欲を高めるのに適切だった。これが、買い物ゲームをしようではそこまで意欲が高まらなかったのでは。How much? May I help you?などは、ももとの計画にはなかったものだったが、子どもたちが使いたいと言って出てきたものなので大切にしたい。

【自己評価カード】

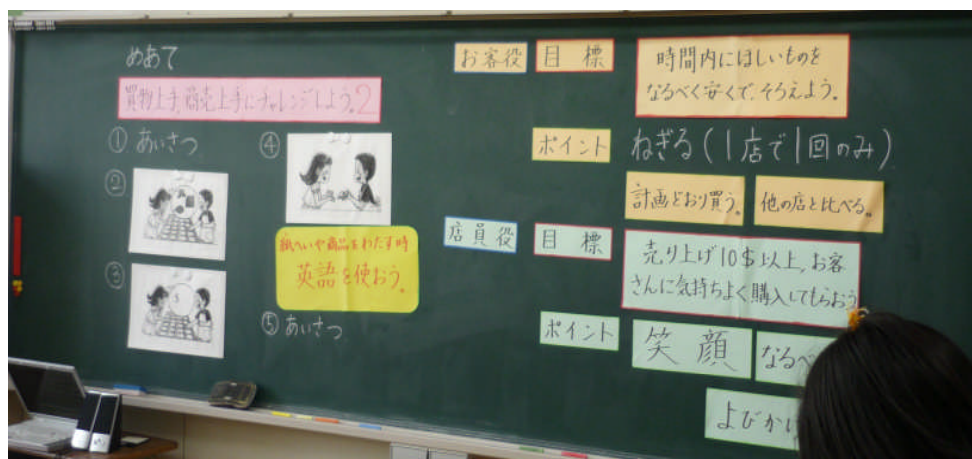
- ・何か分からないことがあった時「One more time please」と言えたかなど具体的な評価項目を入れ、コミュニケーション活動ができていたか見取る学校もある。
- ・表現についてのふりかえりカードも活用していきたい。
- ・反省カードの中で困ったことやできたことを書かせたい。
- ・売り手、買い手それぞれの目標があるが英語で伝えたり、会話ができたりしたか項目を設定すればよかったのでは。ゲームは目的ではなく、手段であることを忘れずに指導したい。

【その他】

- ・外国の文化を理解するという外国語活動の目標からすると May I help you?の使い方について後日でいいので指導したい。（いらっしゃいというような使い方ではない）

4 学校長より

- ・外国語活動の目標を意識した指導をしていきたい。
- ・子どもたちの表情をみていると外国語活動が好きというのが伝わってきた。実態調査の結果にもそれが表れている。
- ・みんなの前で発表することに抵抗感を持っている児童がいるので、それを取り除くような指導の工夫をしていきたい。
- ・積極的に売ったり買ったりしないと今日の活動はできなかったもので、コミュニケーション活動とிட்ட点では充実していた。



板書

買い手・売り手それぞれの目標・ポイントを掲示。スキルだけではなく、適切なコミュニケーション活動ができるよう方向付けをした。



買い物の様子

クラスの半分を売り手、買い手に分け、絶えず1対1のコミュニケーション活動ができるようにした。基本文の発話だけでなく、ジェスチャーやあいさつなどを交えてした。



お店

子どもたち自身で店の名前やアピールポイントなどを書かせ、コミュニケーション活動への意欲を高めるようにした。

V 研究の成果と課題

<成果>

- ・ 1単位時間の授業の流し方について共通理解し、統一した指導計画を作成することができた。
- ・ 担任だけで行う授業、担任とAEAともにそれぞれの役割分担がはっきりした。
- ・ 模擬授業を行ったり、AEAの先生に指導のポイントを教わったりすることで、英語活動における具体的な指導法について知ることができた。(チャンツ、スキットなど)
- ・ クラスルームイングリッシュを作成したことで、教師も少しずつ英語を使って授業を進められるようになってきた。
- ・ イングリッシュルームを新設し、教材・教具の活用がしやすくなった。
- ・ 英語嫌いの児童が減ってきた。特に発表や会話など英語を使ってコミュニケーションをとることに抵抗を感じる児童が減った。

<課題>

- ・ 教師のさらなるスキルアップ (クラスルームイングリッシュの積極的活用)
- ・ コミュニケーション能力を高める指導法
- ・ イングリッシュルームの整備 (視聴覚機器の常設)
- ・ 評価方法の確立